

もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟
〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17
電話・FAX (082) 296-5597
E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>
郵便振替口座 01380-6-37958

国体・インターハイ合同報告会・祝賀会

1 月 22 日開催

ホテルセンチュリー 21 広島で

インターハイ 修道 1 位・五日市高校 3 位

平成 27 年度インターハイ・国体祝勝会が 1 月 22 日 (金) 午後 6 時 30 分から「ホテルセンチュリー 21 広島」出行われた。祝賀会は、京才会長の挨拶、久保田広島県体育協会専務理事の祝辞に続いて高体連登山部長の乾杯で開演された。途中、石井道代県教委スポーツ振興課長の祝辞があった。

インターハイ

団体男子 修道高校 1 位 (97,9 点)

監督 西川省吾

選手 安井航生・柳田凌・池田祥太・村中侑太

団体女子 五日市高校 3 位 (98,0 点)

監督 洪 美津

選手 竹村実結・山口楓果・小谷玲那・大西亜美

過去 5 年間の広島県出場校の成績

年度・開催場所	男子・女子
26 年度 箱根	広島学院 4 位・基町 2 位 (98,8 点) (97,9 点)
25 年度 くじゅう	修道 5 位・基町 18 位 (97,1 点) (93,3 点)
24 年度 新潟	修道 2 位・基町 24 位 (99,3 点) (88,1 点)
23 年度 八甲田	修道 2 位・清心 24 位 (96,9 点) (87,2 点)

国体入賞山下、錦織、中野各氏出席

国体 (第 70 回和歌山大会)

○少年女子監督 錦織宏美

選手 山下真由・錦織美里

○成年男子監督 香川正臣

選手 中野 稔・斉藤孔明



挨拶する京才会長 写真提供 仲井正美

出席者 順不同

久保田文也 (県体協専務)・石井道代 (県教委課長)・京才昭 (会長)・伊東奉文 (理事)・野島信隆 (副会長)・小田里子 (理事)・福永やす子 (理事)・仲井正美 (理事)・山田雅昭 (理事長)・豊田和司 (理事)・村井仁 (理事)・加賀谷健一 (顧問)・加藤威海 (参与)・谷断二 (参与)・山崎孝 (OB)・木村寛 (OB)・林雅晴 (元理事)・寺田正弘 (OB)・前田理 (可部)・藤田昌信 (修道)・内藤弘泰 (修道)・西川省吾 (修道)・安井航生 (修道)・

柳田凌 (修道)・池田祥太 (修道)・村中侑大 (修道)・柳田 (選手父母)・菅恭平 (安芸)・森原博之 (国際学院)・下前知義 (広島学院)・尾道憲二 (参与)・西部伸也 (理事)・福永輝彦 (五日市)・杉山章子 (五日市)・懸川一明 (五日市)・洪 美津 (五日市)・奥原義尚 (五日市)・竹村実結 (五日市)・山口楓果 (五日市)・小谷玲那 (五日市)・大西亜美 (五日市)・後藤裕司 (理事)・松島宏 (理事)・森 智昭 (ひこばえ)・錦織宏美・山下真由・錦織美里・中野稔・中野恵・中野紘汰
以上 50 名

第 9 回登山教室を終えて

日時：2015・12・20 (日)

登山形態：日帰り山行

人数：10 名 (スタッフ含む)

第 9 回登山教室は。「もしかすると雪を踏めるかもしれない」という事で、吉和冠山へ行ってきました。タイミングよく雪があったので無事雪山デビューとなりました。(指導部 森本 寛)

雪があり積雪を楽しむ

山奥隆史

登山教室第 9 回目の山行は、12 月 20 日に「体力強化 もしかしたら雪を踏めるかも！」として、吉和冠山～寂地山への日帰りでした。今シーズンは暖冬で雪が少なく、積雪も期待できない状態でしたが直前に積雪があり雪を楽しむことができました。

潮原温泉の汐原登山口から出発し国体ルート通って吉和冠山頂を目指しました。

最初から急登でしたが初めてキックステップを試してみると足場が安定して登ることができました。途中の休憩時には雪道で道を作るための歩き方を指導をして頂きました。吉和冠山頂を目指す予定でしたが、他の登山客を避けるため先に寂地山目指します。途中からルートに登山道から離れ目的地も後冠山に変更。ワカンの装着方法や歩行時の注意を受けそれぞれがワカンを装着して後冠山頂を目指しました。天候に恵まれ風もなくあまり寒さは感じませんでしたが、気温が上がらなかつたのか下山時も雪が溶けてなく歩きやすかったです。

その後、吉和冠山頂を經由して夏の登山道の川沿いを下り汐原登山口で解散。

4 月から登山教室が始まり、今年は山を通して四季を経験することができました。四季それぞれに登り方があり、今回は登山道を気にせず自由に歩ける楽しさを知りました。今シーズンの暖冬傾向はこのまま続きそうですが、本格的な雪山を期待して次回も頑張りたいと思います。



中締め挨拶をする山田理事長



インターハイ優勝を報告する修道高校



写真提供 川口 浩

第 10 回登山教室を終えて

日時：1 月 24 日 (日)

場所：深入山

登山形態：日帰り山行

メンバー：10 名 (スタッフ含む)

第 10 回目は「雪歩きに慣れよう」という事で深入山に行ってきました。今回は天気が不安定なため麓でラッセルと雪洞構築の練習をしました。気温が低く風もあったので装備の確認もできました。(指導部森本 覚)

雪歩きに慣れよう

登山教室 1 年 加村裕子

登山教室第 10 回目は、『雪歩きに慣れよう!』というテーマでした。

山行当日の天気が西日本大荒れの天気・記録的な大雪・低温という予報が週末に近づくにつれニュースで飛び交っている中、たどり着くまでも除雪が追いつかないのか車が渋滞しておりやっとの思いで登山口に到着出来ました。

そして雪の降る中、自分の腰ぐらいの高さの新雪をひたすらラッセル。ワカンを履いても沈む沈む……。どんどん雪深くなり私の背丈以上の高さの場所もありました。先週の冬山研修会で教わったストックと膝を使って圧雪し登っていく方法も腰から上になって

いくと思うようになかなか進まず。

皆さんのラッセルの仕方をよく見てマネることとコツを教わりながら、次の山行ではもっと短時間で距離をかせげるようにしたいと思います。

山頂までたどり着けなかった深入山、天候によってこんなにも左右され登るのに大変な思いをしたのは初めての体験でした。

また、列の後ろに並んでいる間に行動食を取ることや私の場合どンドン手が冷たく痛くなり動かなくなっていく中で 5 本指にわかれた手袋は失敗でした。処置として手袋の中で 5 本揃えてグーパーを繰り返すことを教えて頂き、だんだんと動かせるようになっていきました。先輩方は、手袋が風で飛ばされないように工夫されていました。冬山での装備の選び方と工夫、寒さ対策がまだまだ不十分な為今後の課題です。

山から降り、ビバーク方法として木を使って作る方法を復習したり、2 人用の雪洞を作る方法を学びました。色々方法を教わったことでいざという時に状況に応じて最短で出来る方法を判断し動いていけるようになりたいです。

そして、実際雪に埋まっている人をゾンデを刺してあたる感触を体験しました。人がいるかないかでの感触の違いがなんとなくではありましたがわかりこれもまた初めての体験でした。

今回の深入山、初めての体験がたくさんありとても学ぶことの多かった山行になりました。

ありがとうございました。



写真提供 久保田征治

冬山研修会**楽しい登山 無事帰宅すること**

花田 純子

1 日目、南光河原駐車場スタートし、斜面の登り方・弱層テストでの雪の観察・雪崩の発生場所・ビバークの適切な場所など盛り沢山の研修を受けながら元谷を目指す。途中、ビバーク訓練の指示出されチームで考えた方法でビバークをすることに。私は、何となく聞いた方法で雪洞を作りツェルトを被る事を提案。雪をザックに載せていると見兼ねた指導員が雪をほとんど盛ってしまう有様。半壊雪洞が完成。作成にあたりチームの女性がザックにブルーシートと雪洞の中に銀マットを敷いてくださり自分の装備が不十分であること痛感した。「ツェルトを被る」という言葉に、指導員が「雪ではビチャビチャになるで～」と発言に「聞いていて良かった！」と内心思う。皆さんのビバークを観察するとこんな方法もあるんだ～と、新発見がある。

ツェルトにはロープを付けておくこの重要性も理解した。アイゼン装着方を学び、滑落停止方を学ぶ。実際に転倒から停止姿勢に移せるかは疑問だが、上手くピックが刺さると両足を引っ張られても身体を保持出来ることに驚いた。女性指導員から女性ならではのピッケルアドバイスをいただき、女性指導員の存在が嬉しく思う。大山北壁の地形の説明をいただき野心を心に秘め、初日から多くの収穫があり満腹状態で下山。ビバーク、滑落停止、分厚い手袋でのロープワークの難しさなど実践することの大切さを学び、大変よく理解が出来た。

2 日目は、行者尾根から山頂ピストンをつぼ足とアイゼン装着での歩き方を教わり、登り・下りを一人一人チェックされる。「へっぴり腰～！」と注意をくださるが、「歩く」という技術は即には改善せず練習あるのみである。元谷まで下山後、レスキューの準備と搬送までの一連の流れを教わる。私は、技術習得まで

に至らなかったが、カラビナの代用に雪玉使用など教わることに全てに「へ～！ほ～」と感動ばかりする。私の「楽しい登山＝登頂すること」であったが、「本来の楽しい登山＝無事帰宅すること」であり登山技術、知識＋レスキューも大切なことであると心に入れ替える良いきっかけとなった。最後に正しい雪洞作りを教わる。雪洞作りは皆で童心に戻りながら楽しい連携作業ではあった。完成した快適な雪洞に感動をして、その場をなかなか立ち去ることが出来なかった。

2 日間にわたり、楽しく勉強となる研修会であった。又、他の山岳会の方と触れ合えた事、夜は希望したビーコン操作を指導していただくなど充実した時間が過ごせた事に感謝の気持ちで一杯である。研修会で「得た知識・技術」を生かし、今シーズン必ず雪山の大山にチャレンジしたいと思う。

雪山は、無雪期に比べ高リスクである。少しでも不安を感じたら下山をする・運が良く登頂出来ても自分の実力と勘違いしないよう自然に対して謙虚な気持ちを忘れないようにしたい。



大山 2016・1・16 写真提供 花田純子

平成 27 年度冬山技術研修 (上級) に参加して**多くのことを学ぶ**

新田太郎

私は、これまで主として単独で弥山西稜ルートや八合尾根を登っていました。そのことから、研修 2 日目にこれらのルートを登攀する予定になっていた上級

コースに気軽な気持ちで申し込んだのですが、それを強く後悔する羽目に陥ってしまいました。私は上級コースに参加する人なら出来て当然のムンターヒッチをそもそも知らず、レスキューに不可欠であるスタンディングアックスビレイについてはシステムを全く理解できませんでした。

要するに、私にとって今回の研修は、雪山に登攀するための技術を習得するためのものではなく、これから山に臨む上で何を習得しなければいけないかを知るためのものとなりました。とはいえ、多くのことを学べたと思っていますし、2日目の中宝珠越へのルンゼの登りや上宝珠越から砂すべりへの懸垂下降は、怖さもありましたが十分に楽しむことが出来ました。今年はクライミング講習等で技術の習得に務め、来年の冬山研修にもう少しマシな形で戻ってきたいと思います。(平成28年1月20日)

岳連短信

1、全国登山大会 11・4～6

太田市・松江で開催(予告)

日時:2016・11・4～6

場所:松江市・大田市

大会名:第55回全日本登山大会

主管島根県山岳連盟

参加費:33,000円(予定)

登山コース(三瓶山)A～Eコース

2、平成27年忘年会 2015・12・25 岳連事務所



3、寿賀 長寿にお祝いする言葉

還暦 かんれき 60歳

これで人並。これからが人生の出発。

古希 こき 70歳

元気溢れる澁刺の利。

喜寿 きじゅ 77歳

少しは人生にも慣れてきた。

傘寿 さんじゅ 80歳

少しはお役に立っているか。

半寿 はんじゅ 81歳

これで人生ようやく半分。

米寿 べいじゅ 88歳

まだまだお米が食べたりぬ。

卒寿 そつじゅ 90歳

人生に卒業はないはずだ。

白寿 はくじゅ 99歳

せめて百歳になってから。

百寿 ももじゅ 百歳

一つの節だがまだ未熟。

茶寿 ちゃじゅ 百八歳

もつともつとお茶をのんでから。

皇寿 こうじゅ 百十一歳

そろそろ譲ろうか日本一。

昔寿 せきじゅ 百二十歳

心づもりは出来たけど。

天寿 てんじゅ 百八十二歳

これで人生全う。

4、比婆山国際スカイランご案内

第24回比婆山国際スカイラン

時:2016・5・15(日)

所:中央中国山地 比婆山連峰

広島県庄原市西城町油木 ひろしま県民の森

コース:Aコース(男女18,5km)

Bコース(男女9,0km)

申し込み 2016・1・6から受け付け開始

比婆山スカイラン大会事務局

広島市西区横川町2-4-17 広島県山岳連盟

電話082-296-5597

岳連短信**5、悲惨な山岳事故を防止するために**

○十分な装備を準備しましょう

⇒雨具、照明具、非常食、飲料水は必ず携行してください。

○無理のない登山計画を立てましょう

⇒「早立・早着」が登山の原則 「引き返す勇氣」を常にもってください

○自然を汚さないようにしましょう

⇒持ってきたものは持ち帰りましょう
おいてきていいのは「足あと」だけです

12 (土) 岳連例会山行・岩船山 (廿日市)

第 3 期キッズクライミングスクール (県立総合体育館)・閉会式

12 (土) ~ 13 (日) 中国地区山岳連盟 (協会) 連絡協議会 (岡山県)

16 (水) ビギナーズレッスン (県立総合体育館)

19 (土) ~ 20 (日) 大学生リーダー冬山研修会・大日岳

23 (水) 第 6 回スカイラン実行委員会

山の風景 58

岩手山 2015・10・10

写真提供 森智昭 (ひこばえ)

**編集部より**

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせください。

題字デザイン 今村みずほ 編集 仲井正美

6、遭難事故が多発しています！**もう一度点検 計画と対応力**

冬の自然は厳しく、急変します。冬山経験豊富な信頼できるリーダーと、事故に対応できる力を持ったパーティーであることが必要です。

- 1、エスケープルート (万一の時の逃げ道) は考えていますか。
- 2、気象通報による天気図が取れますか。(ラジオなど)
- 3、応急措置のための知識と医薬品・器具は整えましたか。
- 4、雪崩に対する知識・心構えと装備は整えましたか。
- 5、緊急時の連絡手段は用意しましたか。(携帯電話)
- 6、山岳保険の加入はすみしましたか。
- 7、登山計画書はパーティー全員でよく検討し、理解していますか。
- 8、登山予定の山で発生した過去の事故を確認しましたか。
- 9、条例等で入山が規制されている地域ではないか確認しましたか。

事業計画 2016・3

3・2 (水) 第 5 回普及部会 (予定)

9 (水) 第 3 回理事会・兼第 12 回運営会議

10 (木) 教室ミーティング